

認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会
れんぎ

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261

Email:yunnan@jyfa.org URL:http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大廣場 2011 室

Tel.+86-871-63311468 Fax.+86-871-63320658

[f http://www.facebook.com/NPO.JYFA](http://www.facebook.com/NPO.JYFA) [@jyfa](#)

ブログ【雲南の郵便屋さん】 [検索](#)

編集・発行人 初鹿野 惠蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第50号特別号

発行日 2014年(平成26年)8月15日

会報

輝く瞳の蕾(つぼみ)たちよ! “花”になれ!

「25の小さな夢基金」の女子高生が上海日本人学校の日本人学生と交流 SJS

7月10日(木)、上海日本人学校に於いて、「25の小さな夢基金」で支援する昆明女子中学校春蕾クラスの高校生12名と上海日本人学校高等部の生徒による親睦・交流会が、当協会主催で実施されました。このプロジェクトは、協会会員である上海森茂診療所・三木秀隆総経理の提案と協力で、昨年から実施されており、第二回となる本年は協会から初鹿野惠蘭理事長、雲南支部スタッフも参加

し、和やかな雰囲気の内に開始されました。

歓迎セレモニーで始まった交流会は、自己紹介や体を動かすゲーム等で、さっそく打ち解け、笑顔に包まれてゆきました。その後、数学、国語、英語などの授業を春蕾生が聴講し、昆明での授業とは違う雰囲気を感じたようです。午後の全体交流会には、在上海日本国総領事館の小原雅博総領事もご参加いただき、上海日本人学校の生徒124名を含む総勢147名と一緒に

に日本人生徒による和太鼓演奏や、春蕾生による少数民族の歌と踊りを観賞していただきました。また、上海日本人学校の生徒による、折り紙や坊主めくり、竹とんぼ、紙風船など日本の遊びを、春蕾クラスの生徒は珍しそうに眺め体験しました。この交流プログラムを通じ、両国の若い人たちが異文化体験を通して、互いを尊重する心を育み、将来の日中関係を担うような絆を結んでいってほしいと願いつつ、プロジェクトは大成功の内に終了しました。



★ 春蕾生と小原総領事

「上海日本人学校高等部 昆明女子中学との交流会に参加して」 在上海日本国総領事 小原雅博

上海日本人学校高等部と昆明女子中学との交流会は、今年で2回目になります。今回、交流会に参加し、改めて、若者同士の交流がいかに重要であるかを実感しました。

私は日々日中の交流、特に若者の交流の重要性を強調していますが、両校の生徒達が手作りの行事を通じて打ち解け、相互理解を深め、友情を育む光景に意を強くしました。これからも、このような交流事業を継続し、両校の生徒たちがお互いに国際感覚を磨き、相互理解を深められることを心から期待しています。



★一緒に授業を受けながら交流



★ 春蕾生も民族衣装で日本の伝統和太鼓に挑戦



★ ダンスを披露する春蕾生



★ 上海テレビで報道されました



★ 日本の伝統遊びを体験



★ 総勢147名が参加

日時:2014年7月10日 参加者:昆明女子中学校春蕾生12名、教師2名上海日本人学校生徒124名
会場:上海日本人学校 上海日本人学校 副校長(校長代理)井上隆、教師数名、在上海日本国総領事館総領事 小原 雅博、中国ヤクルト董事副総經理・中島紀幸、中国ヤクルト市場本部公関部公關活動科科長・湯 淋淋、上海日本商工俱樂部局長助理・常松 直志、上海森茂診療所 三木 秀隆総經理 認定NPO法人日本雲南聯誼協会 初鹿野惠蘭、中洲慶子(敬称略)

上海特有の蒸し暑さをぐぐって、キラキラ輝く瞳たちがやってきました。人が真剣に学びたいと思う時に見せる瞳の輝きは、とても美しく印象的です。今年で2回目になる昆明女子高校生との国際交流。今回の12の蕾も見事に輝いていました!上海日本人学校高等部は世界で初めて日本人学校の高等部として開校し、4年目に入りました。各行事は、実行委員会などすべて生徒自身による企画・実施の形をとっており、今回は、国際交流委員会が早くから様々な企画を練り、工夫を重ねて学校あげでの歓迎と交流が実現しました。

日常の高等部の授業も体験してもらいましたが、各担当の先生たちも生徒に負けじと色々工夫し、いつもとは一味違う楽しい授業だったようです。最初のぎこちない動きも瞬く間に打ち解け、笑顔がとてもさわやかでした。上海総領事小原様からは励ましの言葉も頂きました。このような素晴らしい機会を与えていただいた皆様方に感謝申し上げます。今後も、高等部の大切な取り組みとして、よき伝統になっていくことを願っています。

上海日本人学校高等部
副校長 井上 隆

上海日本人学校での交流を通じて



★ 楽しいお昼休みのお弁当は教室で一緒に!



私は今回の交流を通じて、大変多くのことを学びました。上海日本人学校でまず感じたのは、たいへんモラルがあるということです。人に会うと皆笑顔を浮かべ、礼儀正しく頭を下げて挨拶します。また、教室では静かに勉強に集中し、課外活動のときは活発にと勉強と遊びのメリハリをつけていました。

日本人と一緒に授業を受けてみて、最も印象深かったのは授業の方法です。先生は生徒とのコミュニケーションを重視し、決して一方的な授業ではありません。特に英語の授業は大変参考になりました。遊びの中で生徒に単語を覚えさせ、先生は

「先生」としてだけでなく、生徒と一緒に笑って楽しく過ごしていました。私たちの学校と違って日本人学校には食堂がなく、生徒はお弁当を持参し、お昼になると2、3人ずつ集まって友達と食事を楽しめます。また、生徒が自分たちでごみを分別し片付けており、これは私たちも学ぶべきだと思います。清潔というのは日本人のひとつの代名詞です。特にトイレについて、「塵一つない」という言葉だけでは、私が受けた衝撃を言い尽くせません。トイレはその国の文化レベルを表す場所だと改めて思いました。

春蕾クラス2年 李 满華

次世代を担う少数民族の女性たち! 「25の小さな夢基金」OGによる

「雲南春蕾連盟会」設立式



▲ 春蕾連盟会幹部と顧問の肖先生（左・雲南財経大学）



▲ 会長に選任された秦徳英さん（雲南財経大学・モソ族）

6月29日の「未来を創る」フォーラムの際、「25の小さな夢基金」卒業生が「雲南春蕾連盟会」の設立式を行いました。会長の秦徳英さんが挨拶し、「雲南春蕾連盟会」は、これまでの皆様の支援に対する恩返しの気持ちをこめて社会貢献していくことを宣言しました。大人になった少数民族の少女たちが次世代を担い活躍する場として、期待が高まりますね。

尊敬する惠蘭理事長と日本の愛ある皆様、
こんにちは!

この場をお借りして春蕾連盟会成立についてお話しできるのはとても光栄です。春蕾連盟会を代表して協会のすべての方々、連盟会幹部や連盟会会員の愛と協力に感謝致します。

春蕾連盟会は、初鹿野惠蘭理事長の発案で、今年の3月に正式に発足した協会雲南支部に直属する春蕾生を主体とする連盟会です。連盟会の主旨は、昆明女子中学校から卒業した春蕾生が自主的に、政治・宗教と関係のない組織を作り上げることです。

春蕾連盟会は卒業した春蕾生に交流と互助の場を提供するほか、愛と知恵を信念に、協会の引率の下、時間が許す限り交流や企画を行います。

春蕾生たちが学んだ知識と技能を集結し、協会が組織する各公益活動に積極的に参加、協力したいと考えています。社会の調和的な発展と日中友好、そして世界平和の維持と人類の進歩に貢献したいです。

私はずっと変わらぬ思いを持っています。それは、春蕾は恩に感謝する心と団結の代名詞であるということです。困っていた私達はご恩を受け、今まで成長することができました。今は私達がそのご恩をお返しするときです。

愛の力は相互に作用し発展していくものです。春蕾連盟会はこれから、皆さまのご恩を受けながら努力し勉強していきます。そして、皆さまの期待に応え、将来、成長した立派な姿をお見せできるように努力致します。

春蕾連盟会初代会長：秦徳英

フォーラム『未来を創る』 日本語学習が人生を変える 大学生日本語スピーチコンテスト



今年の日本語スピーチコンテストのテーマは「日本語を学んで得たこと」でした。

雲南、師範、民族大学、滇池学院の4大学から1名ずつ参加しました。それぞれ日本語を学び始めてから1、2年にもかかわらず、片言とはほど遠い、流暢ともいえる日本語を披露してくれました。中でも優勝に輝いた曹さんは、内容、表現力ともに特に優れていました。

また石さんは、日本語を学ぶ中、様々な活動を通じてコミュニケーション能力が高められ、人見知りする性格が変わったといいます。それだけでなく、日本語を学ぶことに大反対だった

ご両親が娘を誇りに思うようになったのだそうです。彼女は意志を貫き、自分の人生への「愛」も手に入れたのです。

優勝した曹さんは、日本語学習に取り組んでまだ1年足らずというから驚きです。日本語学習を通じて「人を愛し、感謝の気持ちを忘れず、责任感をもつこと」の大切さを学んだと述べています。彼女もまた様々な体験と出会いを重ね、より広い視野に立って新たな人生に踏み出そうとしているようです。

最後になりましたが、くじけそうになる学生たちを励まし、貴重な経験をさせてくれている日本語の先生方に心から敬意を表します。先生方の「愛」が学生たちを強く優しくし、その人生を変え、愛情の輪を広げているからです。それはJYFAの活動の本質でもあると思います。

日本語スピーチコンテスト審査委員長

協会名古屋支部長 近藤鉄一

審査員の先生

師範大学・張彦萍先生、楊楊先生

雲南民族大学・後藤裕人先生、雲南理工大学・柳陳堅先生



▲ 最優秀賞の副賞は腕時計!



「人に迷惑を掛けない」という文化を学んだ。蒋 路林



いつも笑顔で「人を愛し、感謝の気持ちを忘れず、責任感を持つこと」曹 賽



あらゆる角度から物事を検討するという考え方。そして謙虚な態度。張 昱



人生への姿勢が変わった 石 静

「25の小さな夢基金」中国語 「春蕾クラス生」代表スピーチ



中央:田 香香 右:楊 紅雲

「25の小さな夢基金」の春蕾クラスの卒業生楊紅雲さん（リス族）と現役生の田香香さん（チワン族）が春蕾生を代表してスピーチを行いました。

楊紅雲さんは「春蕾生として目指す社会人」田香香さんは「日本と中国の架け橋となるために」というテーマで、春蕾生ならではの考え方や今後の目標を発表し、会場にいるすべての参加者が二人のスピーチを聞いて自身の人生を見直すきっかけをもらいました。



◀「春蕾クラス」在学当時の写真

「25の小さな夢基金」卒業生へのインタビュー継続中



放課後、生徒たちに囲まれる陳紹仙さん（ワ族）

会員の平田栄一さんが雲南省にて「25の小さな夢基金」の卒業生の追跡インタビューを実施しています。この試みは継続してインタビューを行い、将来一冊の本にまとめ、皆様に報告することを予定しています。今回は、そのインタビューの一部をご紹介します。

支援第1期生の陳紹仙さんは、2013年8月、生まれ故郷からほど近い墨江県の第1中学校で英語教師の道を歩み始めました。新任にもかかわらず1年生のクラス担任を命じられたのは異例なこと。陳さんの優秀さもさることながら、学校側の期待の大きさの表れでしょう。教師になってまだ7ヶ月ですが、「春蕾の先生方

の苦労が身にしみてわかる」と陳さん。早朝6時から生徒が就寝する深夜11時半まで、授業と生活指導で気が休まる時間はないそうです。取材を受けている陳先生を見つけた学生が「先生、先生」と駆け寄ってきました。

陳先生は「お姉さん」のような存在なのかもしれません。「生徒に影響を与えられる教師に成長したい」と、既に“教師の顔”になっていました。

支援第2期生の吳仙さんと趙芝惠さんは、ともに雲南民族大学法医学部の4年生。この6月に卒業です。吳さんは先頃行われた司法試験に合格し、大学卒業後は故郷の元陽に戻り、裁判所の司法公務員に内定しています。

「将来は裁判官か弁護士になって、故郷の人々の役に立ちたい」と夢見ています。一方、趙さんは残念ながら司法試験には合格できませんでしたが、公務員の道を選択し出身地の文山県地方政府に採用が内定しています。

吳さんも趙さんも「これからは父母に樂をさせ、自分のお金で買い物ができる」と社会に出ることを素直に喜びながら、「ホンネをいうと卒業したくないです」と笑っていました。



吳仙さん（左・ハニ族）と趙芝惠さん（右・ヤオ族）